

長野県で発見・記載された2種及び未記載3種

松井 雅之*

タデシナショウキラン《新品種》

ラン科ショウキラン属

Yuania japonica f. *lutea* Suetsugu & Yagame

ショウキランの黄色(ルテア) 個体

2009年6月23日、橋場憲一氏が蓼科山で発見、筆者及び谷亀高広氏が同定、2014年、末次健司氏が日本植物分類学会誌(英文誌)で発表した。山地の林内や笹原などにごく稀に生える高さ10～20cmの腐生植物。6～7月、茎頂に約6cmの花柄子房を持った淡黄色の花を数個つける。橋場氏は佐久、下諏訪でも新たな産地を発見、産地は3箇所になった。和名は最初の発見地 蓼科/立科に由来、橋場憲一氏が命名する。



写真1 タデシナショウキラン(ラン科)
2011年7月22日北佐久郡立科町



写真2 タデシナショウキラン(ラン科) 2015年6月15日北佐久郡立科町 ショウキランと競演



写真3 タデシナショウキラン(ラン科)
2012年7月25日北佐久郡立科町(果実)

* 松井 雅之 〒370-2202 群馬県甘楽郡甘楽町小幡937-3



写真4 シナノコアツモリソウ (ラン科) 2017年6月6日 木曽郡上松町



写真5 シナノコアツモリソウ (ラン科)
2011年6月14日 木曽郡上松町



写真6 シナノスミレ×フイリフモツスミレ
(スミレ科) 2012年4月25日 木曽郡南木曽町

シナノコアツモリソウ《新品種》

ラン科アツモリソウ属

Cypripedium debile f. *shinanoense*

コアツモリソウの1品種(色彩変異)

2017年4月、末次健司、設楽拓人両氏が植物研究雑誌第92巻第2号で発表した。

木曽山中のヒノキ林の林床に稀に生える高さ8～20cmの多年草。5～6月、垂れ下がった花軸の先に1cmほどの花を下向きに1個つける。唇弁は長さ0.8～1.2cmの袋状、白地で全く条斑が無い無斑である。背萼片の内側、ずい柱付近の中心部も白色で母種とはやや異なる。

長野県産のコアツモリソウに疑問を抱いていた筆者は末次氏に相談していた。2016年6月～数ヶ月間、旧知の橋場憲一氏、峯田美智子夫妻と個体調査を実施、ヒノキ林を主体とした笹が繁茂する林床に200個体以上群生していた。

和名は筆者及び橋場氏と意見が一致、命名した。

シナノスミレ×フィリフモトスミレ《新雑種》

スミレ科ミヤマスミレ類

Viola violacea var. *tanakana* × *V. sieboldii* f. *variegata*

シナノスミレ×フィリフモトスミレの雑種

2011年、木曽郡の山中で峯田美智子、橋場憲一、筆者が開花中の2個体を発見。付近にマキノスミレは無く、シナノスミレとフィリフモトスミレが混生している事などから筆者及び伊東昭介氏が新雑種と同定した。

葉は両種の間だが、花の色はシナノスミレの紅紫色が強く、側弁の基部はフィリフモトスミレのような毛がある。4～5月、直径1～1.5cmの紅紫色の花をつけ、側弁は有毛。シナノスミレの側弁に毛はない。よく似たフィリマキノスミレも葉脈に沿って白斑が入るが、側弁は無毛。

2個体発見したことから証拠標本(1個体)は伊東昭介氏が信大に納めた。

キバナコゴメヒョウタンボク(仮称)

スイカズラ科スイカズラ属

Lonicera linderifolia var. *konoii* f. *lutea* M.Matsui & Hashiba

(学名：筆者記) 未記載

コゴメヒョウタンボクの黄花個体

2016年5月27日、橋場憲一氏がハケ岳山系で発見、筆者が同定した。

亜高山の林縁、岩場などに稀に生える高さ約1mの落葉小低木。5～6月、枝先の葉腋に長さ1cmほどの細い黄緑色の花柄を出し、淡黄色の小さな花を2個ずつつける。花冠は淡黄色、長さ6～8mmの小さな鐘形をしている。果実(液果)は直径4.5～6mmのほぼ球形で7～8月に黄緑色に熟す。花及び果実の色が異なる以外、コゴメヒョウタンボクと差異は認められなかった。文献などに記載が見当たらないことから我が国、初の発見と思われる。正式発表はしていないが黄体をf. *lutea* とする先例に倣って学名を記した。

シロバナシドキヤマアザミ《新品種》



写真7 キバナコゴメヒョウタンボク《仮称》(スイカズラ科) 2016年5月28日(花)



写真8 キバナコゴメヒョウタンボク《仮称》(スイカズラ科) 茅野市北山 2016年5月28日(花) 2018年7月19日(果実)

キク科アザミ属

Cirsium shidokimontanum f. *alba* M.Matsui

(学名は筆者記) 未記載

シドキヤマアザミの白花品

2014年9月6日、佐久市佐久高原の水湿地で白花品を3個体発見した。

山地の草原や湿地周辺などに生える高さ100～

200cmの多年草。葉は長楕円状披針形で、基部は茎を抱き、歯牙縁が羽状に中裂する。羽状に切れ込むものから切れ込まないタイプまで変異がある、8～10月、茎の上部に無柄の頭花を穂状に多数つける。

発表はしていないが、白花品を f. *alba* とする先例に倣って学名を記した。



写真9 シロバナシドキヤマアザミ《仮称》(キク科)
2015年9月3日 佐久市志賀



写真10 シロバナシドキヤマアザミ《仮称》(キク科)
2015年9月3日 佐久市志賀